

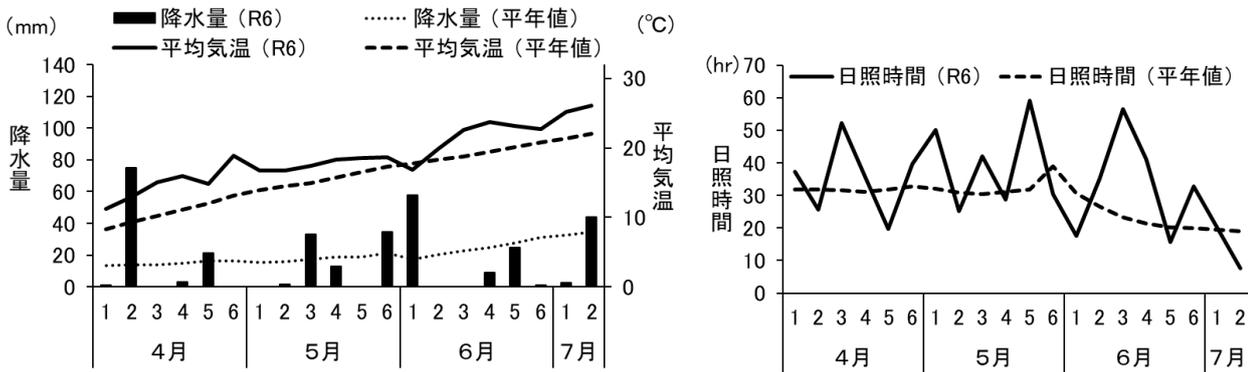
# 仙台稲作情報 2024 (第5号)

宮城県仙台農業改良普及センター TEL:022-275-8410 FAX:022-275-0296  
 http://www.pref.miyagi.jp/sd-nokai E-mail:sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

## 栽培管理のポイント

- ▷ 追肥は稲の葉色や生育ステージを確認して適切に実施しましょう。
- ▷ 前年紋枯病が多発したほ場では、防除を実施しましょう。
- ▷ 斑点米の発生防止のため、水田周辺の草刈りを適期に実施しましょう。

## 1 気象経過



- ・ 6月は気温が平年より高く推移し、特に中旬以降は平年よりかなり高く推移しました。
- ・ 降水量は、6月中旬以降概ね平年より少なく推移しましたが、7月上旬は雨が降る日もありました。

## 2 管内の生育状況 (7月10日の調査結果)

### (1) 移植栽培 (ひとめぼれ)

- ・ 草丈は 65.4cm で平年並、茎数は 469 本/m<sup>2</sup> で概ね平年並の状況です。葉色 (GM 値) は 36.8 で、幼穂形成期の目安 (38~40) よりやや淡くなっています。
- ・ 幼穂長は 2.0mm となっており、幼穂形成期に入りました。

表1 7月10日の調査結果

品種	地帯	場所	田植日	草丈 (cm)			茎数 (本/m <sup>2</sup> )			葉色値 (GM値)			幼穂長 (mm)		
				本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	仙台湾沿岸	仙台市宮城野区	5/16	63.2	102	103	365	108	95	39.1	+6.4	+1.7	0.9	-1.3	-1.2
	北部平坦	大郷町鷲崎	5/7	69.1	101	106	549	109	101	35.6	+1.3	-1.4	1.4	-0.0	-0.6
	西部丘陵	仙台市泉区	5/15	63.9	92	100	491	101	88	35.7	-2.2	-0.3	3.8	-2.1	-4.2
	管内平均			65.4	98	103	469	106	94	36.8	+1.8	±0.0	2.0	-1.1	-2.0
ササニシキ	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/17	65.4	98	100	510	111	98	39.2	+3.5	+0.8	2.4	+0.6	-0.5
金のいぶき	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/7	72.5	109	-	449	83	-	33.3	+1.4	-	2.7	+2.1	-

※平年比の計算は、直近3か年の平均値を使用。仙台市若林区「金のいぶき」は、平年値なし。

表2 品種別生育調査結果 (県内 32 地点)

品種	草丈 (cm)			茎数 (本/m <sup>2</sup> )			葉色値 (GM値)		
	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	66.0	99	104	507	101	96	39.5	+1.0	-1.1
ササニシキ	63.5	101	105	556	99	92	39.3	+0.2	+0.6
つや姫	66.1	99	109	471	87	90	39	-2.6	-3.8

※ひとめぼれ 18 地点、ササニシキ 6 地点、つや姫 8 地点、古川農業試験場、仙台的地点を含む

## (2) 乾田直播栽培

ササニシキの草丈は62.3cm、莖数は415本/m<sup>2</sup>となっており、葉色(GM値)は33.5でした。幼穂長は2.6mmで、幼穂形成期に入りました。ひとめぼれの草丈は62.9cm、莖数は485本/m<sup>2</sup>、葉色は35.5でした。幼穂長は0.5mmで、間もなく幼穂形成期に入るとみられます。

表3 7月10日の調査結果

品種	地帯	場所	播種日	草丈 (cm)			莖数 (本/m <sup>2</sup> )			葉色値 (GM値)			幼穂長 (mm)		
				本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
ササニシキ	仙台湾沿岸	仙台市若林区	4/18	62.3	96	98	415	72	64	33.5	-2.9	-4.2	2.6	+1.8	+1.8
ひとめぼれ	仙台湾沿岸	仙台市若林区	4/21	62.9	-	-	485	-	-	35.5	-	-	0.5	-	-

## 3 生育ステージの予測 (古川農業試験場、7月2日現在)

地域区分別の生育ステージの予測は以下のとおりです

表4 地帯区分別の生育ステージの予測

地帯区分	幼穂形成期		減数分裂期		出穂期	
	始期	終期	始期	終期	始期	穂揃期
北部平坦	6/28	7/10	7/8	7/20	7/27	8/6
南部平坦	6/30	7/11	7/10	7/21	7/24	8/10
仙台湾沿岸	6/27	7/11	7/7	7/21	7/25	8/6
西部丘陵	7/1	7/13	7/11	7/23	7/30	8/8
山間高冷	7/4	7/14	7/14	7/24	8/5	8/10

注1) 生育予測に用いるデータ ①日別平均気温(アメダス)、②移植時期、③移植時の葉数(県平均値3.1葉)

注2) 各地帯区分で使用したアメダス地点は次のとおり 北部平坦:大衡、南部平坦:白石、仙台湾沿岸:仙台、西部丘陵:蔵王、山間高冷:新川

注3) 7月2日までアメダスデータ実測値を使用、7月3日以降はアメダス平年値を使用

注4) 「減数分裂期」は幼穂形成期予測から10日後

注5) 対象品種「ひとめぼれ」

表5 生育ステージの目安

生育ステージ	幼穂長	葉耳間長	出穂前日数
幼穂形成期	1~2mm	—	25~20日
減数分裂期	30~120mm	-10~0cm	15~10日

## 4 本田管理

### ○高温の影響と対策【出穂期まで】

- ・登熟初期の高温は、白未熟粒等の品質低下につながります。  
→籾数が過多、もしくは穂揃期葉色が低いと登熟初期の高温の影響を受けやすい傾向があります。葉色等を確認し、ほ場毎の地力に応じた施肥管理、適期追肥を行いましょ。
- ・高温は紋枯病、斑点米カメムシ類の発生を助長させます。  
→紋枯病は、前年に多発したほ場では穂揃期に茎葉散布剤で防除を行いましょ。斑点米カメムシ類は、穂揃期とその7~10日後の2回防除が基本です。

### ○水不足時の水管理【出穂期まで】

- ・幼穂形成期~出穂期までは飽水管理とし、ほ場を湿潤状態に保ちましょ。
- ・出穂期は水を必要とするため、できるだけ浅水管理~間断灌水とし、用水が不足する場合は飽水管理としましょ。

詳細は「農業用水不足時における今後の水管理について」をご覧ください。

## 移植栽培

### (1) 水管理

- ・ **ひとめぼれとササニシキは幼穂形成期に入りました。** 他品種も近日中に幼穂形成期に入ると推測されます。出穂期までは飽水管理とし、土壌を酸化的に保ち根の活力を維持しましょう。
- ・ 幼穂形成期から減数分裂期に、日平均気温 20℃以下が長期間続く場合や最低気温 17℃以下の場合には障害不稔が発生する危険性が高くなりますので、その際は深水管理を実施しましょう。  
※幼穂形成期：水深 5～10cm、減数分裂期：水深 20cm が望ましい

### (2) 追肥

- ・ **葉色が低下しているほ場が散見されます。葉色が薄いと登熟期の高温の影響を受けやすくなるため、ほ場をよく観察して適切な追肥を行い、穂揃期の葉色維持に努めましょう。** (表 6、表 7)
- ・ ほ場により生育が異なるので、幼穂長を測定し生育ステージを確認しましょう。(表 5)
- ・ 「だて正夢」は葉色が濃い品種です。周辺ほ場に比べ色が濃くなり、追肥を抑えがちですが、穂揃期の葉色を維持し、登熟の向上を図るため、適正な追肥を実施しましょう。
- ・ 「金のいぶき」の葉色は幼穂形成期頃から「ひとめぼれ」より淡く推移します。急な葉色の低下に注意し、登熟向上のために表 6 の目安を参考に 2 回の追肥を基本として実施しましょう。
- ・ 基肥に穂肥の時期まで肥効のある緩効性肥料を施用した場合や復元田の場合は、倒伏が懸念されるため、原則として追肥は行いません。

表 6 生育ステージにおける葉色と追肥の目安 ※葉緑素計 (GM 値)

品 種	幼穂形成期 (幼穂長 1～2 mm) 出穂 25～20 日前		減数分裂期 (幼穂長 30～120mm) 出穂 15～10 日前	
	葉色	施用量 (N 成分/10a)	葉色	施用量 (N 成分/10a)
ひとめぼれ	38～40	1.0kg	35～37	1.0 kg
ササニシキ	34～36	-	32～34	1.0～1.5 kg
だて正夢	40～42	(茎数が少ない場合は 1.0 kg)	37～39	2.0 kg (幼穂形成期に追肥した 場合は 1.0 kg)
金のいぶき	33～35	1.0 kg	30～32	1.0 kg
つや姫 まなむすめ	35～37	2.0 kg	つや姫 31～33 まなむすめ 36～38	-

表 7 追肥の主な効果・影響

		穂数の増加	1 穂穎花数の 増加	1 穂穎花数の 減少防止	登熟の良化	下位節間の 伸長と倒伏	玄米タンパ ク質の増加
施用 時期	幼穂形成期	○	◎	○		×	
	減数分裂期		○	◎	◎		
	穂揃期				○		×

### (3) 病虫害防除

#### ①いもち病

- ・ 7月8日発表の病虫害防除所の発生予報では、平年並の予想です。
- ・ 上位葉での葉いもちの発生は、穂いもちの重要な伝染源になります。葉いもちが広く確認される時期は 7/11～15 と推測されているため、ほ場をよく観察し、発生が確認された場合は直ちに茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・ 特に窒素過剰により稲が軟弱徒長気味で葉色が濃いほ場は、早期発見、早期防除に努めましょう。
- ・ また、追肥後は一時的に稲体窒素濃度が高くなり、いもち病に対する抵抗力が弱くなるので発生に注意しましょう。
- ・ 穂いもちの予防剤は、出穂 30～5 日前に使用する剤が多いので、生育状況をよく観察し、出穂期の予測に基づき適期に散布しましょう。

- ・BLASTAM（ブラスタム）による葉いもちの感染好適条件の推定結果は、病害虫防除所のサイトをご覧ください。<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

## ②紋枯病

- ・高温で降雨日数が多いと株間の湿度が高まり、幼穂形成期頃から発生が目立つようになります。
- ・前年に発生が多かったほ場では多発のおそれがあります。穂ばらみ期の水面施用剤、穂ばらみ期～出穂期頃の茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・病斑は水際の葉鞘に現れるので、茎葉散布剤による防除では、株元に薬剤（液剤、水和剤、粉剤）がよく付着するよう十分な薬量で散布しましょう。
- ・要防除水準は、稲作情報第4号（7月3日発行）を参照してください。  
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/6313/inasakuno4.pdf>

## ③稲こうじ病

- ・穂ばらみ期に低温で降雨日数が多い条件下で発生しやすくなります。
- ・ほ場に残った菌核などが伝染源となるため、前年に多発したほ場では注意が必要です。
- ・銅剤は予防効果が高く、出穂 20～10 日前が散布適期です。
- ・窒素肥料の多用は発生を助長する恐れがあるため、多発が予想されるほ場では過剰な追肥は避けてください。

## ④斑点米カメムシ類

- ・水田周辺の雑草地や法面等では、斑点米カメムシ類の密度を抑制するため、7月中旬までに草刈りを行いましょう。
- ・水稲の出穂前後の畦畔の草刈りは、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、水稲が出穂する 10 日前までに行います。出穂期の予測を参考に作業の計画を立てましょう。

## 乾田直播栽培

基本的には移植栽培と同じ管理となりますが、以下の病虫害の発生に注意しましょう。

### (1) いもち病

直播栽培は、移植栽培より生育ステージが遅く、感染のタイミングが遅れる傾向があります。ほ場を見回り、早期発見・早期防除に努めましょう。

### (2) イネツトムシ

通常は8月上旬頃から加害が始まります。特に葉色が濃い部分に産卵されることが多く、直播栽培で問題となることがありますので発生に注意し、防除が遅れないようにしましょう。

## 5 東北地方の向こう 1 か月の天候の見通し（7/4 仙台管区气象台発表）

予報のポイント

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- 低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすいため、向こう 1 か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。

### ■宮城県農薬危害防止運動実施中（6月1日～8月31日）

宮城県では、6月から8月にかけて農薬危害防止運動を実施しています。この時期は農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。

次回の稲作情報第6号は、7月19日に実施する生育調査の結果をもとに7月23日頃の発行となります。

## 農業用水不足時における今後の水管理について

宮城県米づくり推進本部  
令和6年7月11日

- 県内各地のダムでは、平年よりも貯水量が少ない状態が続いており、今後1か月の降水量が平年を下回った場合、8月に十分な農業用水が確保できなくなる可能性が高まっています。
- 出穂後30日頃までは、限られた用水で「**飽水管理**」を行い、ほうすいかんり土壤を湿った状態に保ちましょう。
- 「**飽水管理**」は、登熟期間が高温のとき、玄米の品質向上を図る技術としても有効です。

### ほうすいかんり 飽水管理のメリット

- ◎限られた用水で実施可能
  - ◎根の活力維持
  - ◎地温の上昇抑制
    - ↳ 稲体の温度が夜間に下がるため、光合成により作られた養分が籾に転流しやすくなる。
- しろみじゅくりゅう どうわれりゅう  
白未熟粒や胴割粒の発生を抑制できます

### 高温時のたんすいかんり湛水管理のデメリット

出穂期以降の夜温が高いと、「湛水管理」では夜間の水温がなかなか下がらないため、稲体の温度も下がらず、光合成で作られた養分を呼吸で消費してしまう。

⇒ 白未熟粒の発生を助長

### (参考)飽水管理の方法

- ① 水尻を閉める。畦畔からの漏水がないか確認する。
  - ② 田面が浸るくらい(ひたひた)に水を入れる。
  - ③ 水を止めたら、水尻は閉めたまま、自然減水させる。
  - ④ 水田の足跡に水がなくなる頃、又は番水のタイミングで次の水を入れる。
- (目安は3~5日おき)

※出穂期前後は稲体が最も水を必要とする時期です。  
飽水管理を徹底し、土壤を湿った状態に保ちましょう。

イメージ図

